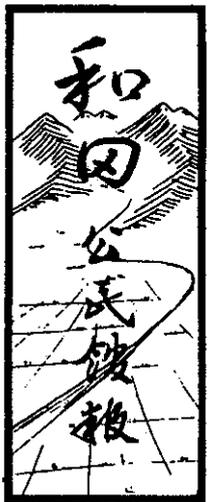




150名程の参加者がゴールを目指してスタート！ゴール後の豚汁が楽しみ！！

10月22日に和田ウォークラリーが開催。前夜の雨が上がり、肌寒い日でしたが歩くには最適。通常とシヨートの2コースに分かれ、ゲームやクイズ、ゴミ拾いをしながらゴールを目指しました。参加者の中に2年前はベビーカーで参加した2歳の子が今年は歩いて参加した話。ゴミ拾いをした小学生からは「タバコの吸い殻が多かった。捨てないで。」など話が聞けました。

何気なく車で通り過ぎて



秋空の下

第17回和田ウォークラリー開催

目指せGOAL！

和田の世帯数・人口

世帯数	1,515戸
人口	4,056人
男	1,972人
女	2,084人

(令和6年、11.1現在)



和田学校発祥の地(中町会)にて問題にトライ！明治6年和田村に学校はいくつあったのかなー??

第1回 『上高地ウォーキング』開催

和田町 加藤

上高地ウォーキングへ9月11日行って来ました。普段運動をしていないので不安を抱えたままの一大イベント当日。晴天、母親と参加。スペシャルゲストのお二人がバスの中で上高地のお話をしてくださいまし

いる場所を歩いて、発見や和田の史跡を知る機会となりました。なにより、スタツフの皆さんが作ってくれた豚汁は、美味しくて体も心も温まり最高でした。



全員無事に完歩！河童橋と穂高連峰を背にハイチーズ！

た。クマがでるそう…怖い。大正池でバスを下車。一気にテンション上りました。暑くなく空気が気持ち良い！開放感がたまらない。大正池にうつる焼岳に圧巻。景観は幻想的。平日でも観光客沢山いました。みんな素敵な表情。約4km無心、無口になった時間もありました。山がすきな人の気持ちが少しだけわかりました。河童橋がみえた時、ゴール！(心の叫び)最高。流れる川がとてもきれい。水の色が透き通っていて青くてエメラルドグリーン。何度見ても飽きなく目が離せませんでした。お土産に上高地ビール購入。家に帰っても上高地気分♪ 西原 堀



とってもきれいに仕上がりました！冬場の癒しになります！

寄せ植え講座に参加して一度やってみたいと思っていた寄せ植え。今回16人のお仲間と一緒に初体験です。花はピオラとスイートアリッサ。クリスマスリースをイメージして寄せ植えをします。まずアリッサを正三角形になる様に植えて、その間に2色のピオラを植えます。花の高さを揃える様に外側の花が綺麗な円になる様にしますが、これがなかなか難しかったです。苗と苗の間に隙間が出来るので土を足します。乾燥を防ぐ為周りに水苔を置いて寄せ植えの完成です。可愛い花を眺めながら心穏やかな時間を過ごせたら初めて寄せ植え成功です。 衣外 赤羽

スポーツの秋 ①

市民スポーツ大会 10月13日



野球 (第3位)



卓球 (優勝)



ソフトバレーボール

スポーツの秋③



和田地区マレットゴルフ大会
秋晴れの下、ナイスショット！
楽しくラウンドができました

スポーツの秋②

松本市長杯争奪球技大会 10月27日・11月4日



ママさんバレーボール (第3位)



マレットゴルフ

特集 和田公民館報アーカイブズ ① 歴史的資料

和田公民館の2階にある図書室に『和田公民館報合冊版』上巻(創刊号)第100号)下巻(101号)300号)の2冊を所蔵しています。この冊子は、和田の地域づくりの取組みを掲載した貴重な文献です。この度、和田地区の皆様にと共、館報に記事の一片を特集として紹介し、和田の歴史を振り返り、先人の思いを知り、和田地区が益々発展するための今後の多種多様な取組みに役立てていただきたく特集を組みました。館報編集委員会



和田公民館報創刊号昭和28年(1953年)9月8日付
掲載記事・お盆親睦野球大会・我が村にも水道出来る・保育園を設けましょう等

昭和28年創刊号掲載記事 論説 館報について

今年初めて和田村として公民館報が発行される事になったのは、誠に喜ばしい限りであると共に明るい村作りのために大きな期待を寄せたいと思う。

そしてこの館報の成長を見つめ、伸びる若芽を守り育てる努力を惜しんではならない。終戦後一時和田村広報が村から発行されたが、広報なるものはやはり村或は組合等より一般に広く知らす云う意味が強かった。その時の社会的な情勢により制限も加わっていたのであるが現在、館報・広報等自由に編集発行されるようになった。(中略)

編集者の努力と共に、館報を自分達のものとしていく様、特に村民の皆様様の積極的な協力と援助を望み、香り高き文化農村建設の為に、活気に満ち溢れた館報としたいものである。



★新企画★ 男の料理教室&居酒屋公民館開催
美味しくそうにできました！
三ツ星認定かな??

やさいも

やさいもといえは、石焼き芋。「いしやきもおいしい」と、郷愁を誘うあの歌。私が和田小学校に通っていた随分昔、晩秋になると、軽トラに焼き芋機?を乗せて、煙突から煙を出しながら、石焼き芋屋さんが時々来ていました。歌が聞こえると、友達と一緒に焼き芋屋さんを探したものです。軍手をした、おじさんが、熱い焼き釜の中から焼き芋を取り出して、新聞紙に包んでくれました。パリッと焼けた皮、黄色くて甘いおいも、今も昔も焼き芋の美味しさは、変わりませんね。冷やし焼き芋がダイエットにいいとか... 朗報です。

下和田 吉田